

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点]（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（No.1からNo.87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（No.88からNo.100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホーム あおいの家
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県 薩摩川内市
記入者名 (管理者)	東 努
記入日	平成 21 年 5 月 25 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	その人らしく暮らしていただくために、安心と、健康と、幸せを願った理念としている。地域でゆったり暮らしていただけることを基本としている。		
2 ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の日常生活の中に、実践が理念に基づいたものになるよう、管理者、職員共に理念を共有できるようにしている。		
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	利用者が地域の中で安心して暮らせるように、家族や、地域の人達にも、色々な機会を通じて分かりやすく説明している。(地域密着型サービスについて)		
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の方々にも当方から声をかけるようにして、以前より気軽に声をかけてもらえるようになった。季節の野菜など届けていただくこともある。		
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者一人一人が地域とつながった暮らしが出来るように、ホームも地域の自治会に入り、色々な行事等にも参加している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	利用者への日常支援を基盤に、地域の方々の訪問を機会に、認知症のことなどについても、説明したり相談も受けるようにしている。又地域でのふれあいサロン等への参加の中で、認知症になっても心配しなくて良いように、制度説明等やっている。	○	今後についても、利用者への支援を大事にしながら、地域の高齢者の方々の、暮らしに役立てるような係わりが出来るようにしていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価、自己評価を通じて、評価内容を勉強会等でよく検討しながら、出来ることから改善を進めている。	○	段階的に改善することになっているが、改善できていない事項等についても、少しでも改善に向けて努力したい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価の取り組みとして、年間テーマとして、地域の方々との連携のあり方について、意見を出してもらい、サービスに組み込めるようにした。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	入居者や、家族の相談なども含めて色々な機会を通じて、情報や、指導をうけるようにして、関係作りを大切にしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	支援が必要と思われるケースがあれば、支援できる体制にある。又今後についても勉強会など通じて、制度を理解したい。現在該当者無し。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法など職場での勉強会を通じて、潜在的な虐待など見過ごされることがないように努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、事業所としての考え方や、退居を含めた当方としての対応可能なことなど説明を行い、理解してもらっている。入居中起こりうるリスク、重度化、看取りについての対応など重要事項説明を含めて納得を得るようにしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活の中での言葉や態度、日頃の会話からその想いを推察する努力をし、家族等からも情報を得るようにして、利用者本位の運営を心がけるようにしている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	市外の家族には月1回の請求書発送のおり、状況報告したり、行事等でのスナップ写真など送るようにしている。来所できる家族には都度状況を報告するようにしている。金銭管理についても出納帳の残高など確認してもらっている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付については体制も出来ており、色々な機会を通じて家族とも話し合える機会を作っている。又相談なども受けるようにしている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1～2回のミーティングを通じて、話し合いの中で運営に関する意見なども出してもらっているが、意見は少ない。	○ 色々な面において、日頃から意見や要望など話しやすい雰囲気作りをしていきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者中心のサービス提供を心がけているが、勤務についても状況に応じて、独自に調整するようにしている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員と、利用者の馴染みの関係を深め、信頼関係もあることから、職員の移動や、離職があっても、入居者にきちんと紹介し、引継ぎの面でも混乱がないように気配りしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場研修を基本にしながら、事業所外の研修も出来るだけ受講できるようにしており、現場スタッフの研修の場も組織を通じて設けてもらっている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	組織を通じた管理者間の情報交換等の交流はあるが、ネットワーク作りや、相互訪問などの交流までは出来ていない。	○	同業者間の相互訪問等の機会作りに取り組むようにしたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員のストレスや、悩みを把握できるように努め、特に職員間の人間関係を最重点的に考えながら、悩みや心配事を聞けるようにしている。	○	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者も頻繁に現場に来ており、職場での色々な出来事について報告を受けながら、実情を理解しているつもりである。事業も独立採算の中で、厳しい状況にあるが、処遇についても配慮しているつもりである。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族との相談は事前に色々話しは聞けても、入居については本人の認識は殆どないままに入居されることが多く、私は何故ここにいるの？から始まる生活が多い。不安、焦燥、混乱など精神不安定などから、本人の思いを大切に、安心と信頼の関係作りを大事にしたい。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ここに至るまでの経緯を家族より親密に伺い、施設などに家族を預けることについての悩みや、不安を抱えておられ、家族と想いを一つにして、一緒に悩み、想いを聞くようにしている。又ホームでの対応についてもどのようにやれるか事前に話し合うようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談や、見学に見えたとき、入居者や、家族の思い、状況など確認しながら、そのケースによっては、他施設や行政にも一緒になって相談したりしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談に見えた時、家族、本人の状況を確認して、事前の対応を必要とするような場合は、本人と一緒に見学してもらったり、入居者と一緒にお茶を飲んでもらったりしながら、雰囲気にも慣れてもらい必要なサービスにつなげるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は人生の先輩であると言う考えを職員が共有し、本人が地域でその人らしく暮らしていただくために、共に暮らす中でご本人の生活歴の中から教えてもらったり、支え合って生活してもらっている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご本人にとってどうかを判断材料に、家族とも話し合いながら、お互いの立場に立って、その想いを共有して入居者本人を支援していきたい。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族の関係は、それぞれの立場で良い関係だけではないが、本人にとって、家族にとってお互いの立場を理解して、良い関係へ向けられるように、支援していきたい。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の一人一人の生活習慣を大切にし、本人の行きたい所や、会って見たい人など、昔の家を訪ねたり墓参りなど、少しでも希望があれば出かけていく機会を作るようにしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	毎日のお茶の時間や、食事、レクリエーションなど一緒に過ごす機会に多くの会話が持て、利用者同士が共に支え合って暮らせるような環境作りと、色々馴染めない人が孤立しないように、共に暮らせる楽しみを支援していきたい。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	長期入院などにより、やむなくサービスの終了された方も、事前に家族とも話し合いながら、次の施設など受け入れを相談、手続きをして最後まで継続的な付き合いが出来るように心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望の聞けることはその人らしく暮らしていたできるように支援する。思いや希望の聞けない方は、日常生活の中での会話や表情などからその想いを推測したり、その人の立場にたってスタッフ間で意見を出し合い、検討するようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にも本人や家族からこれまでの状況を聞き取りしたり、暮らしの情報や、生活環境に関して話を聞いたりして、把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一日の生活の中で、本人の出来ること、出来ないことを把握しながら出来ないことより出来ることに着目し、生活の中に生かして行きたい。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者がその人らしく暮らせるように、本人や家族の思いを大切にスタッフの意見も出し合って、介護計画を作成するようにしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員が情報確認しながら、原則3カ月おきの見直しをしながら、変化に応じて本人、家族、スタッフ等と話し合いながら、臨機応変に見直すようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気付きや、入居者の状態変化など、一人一人の看、介護、観察記録を記入し、その内容について職員間で共有しながら、日々のケアに生かすようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者、家族の状況や要望をを軸に、本人の暮らしを馴染みのスタッフが出来るだけ継続してお世話できるようにし、安心して暮らせるように、支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ホームだけではやれないことを、地域・公・民の力を借りながら、暮らしの中に生かして行きたいが、まだ取り組みとしては、緊急を要することのみになっている。	○	暮らしの中にそれぞれ専門分野の協力をもらいながら、地域との交流の中で、周辺施設からの理解、協力がもらえるように取りくんでいきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人、家族の思いや希望を聞きながら、介護保険以外のサービスについても、行政で行っているマッサージや、高齢者お出かけサービスなど利用するようにしている。。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	包括支援センターとの協働は、個別支援等についての連携は今のところ出来ていない。色々必要な資料をもらって、職場での勉強会などに使用させてもらったりしている。	○	ホームのみで解決できないような困難事例等については、相談しながら本人、家族にとって一番良い方法など個別的に支援できる体制作りしていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医を主体に専門医療以外については、了解が得られればホームの協力医療機関を主治医とすることもお願いしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	入居時すでに専門医に受診されていた方は継続してもらい、専門医に往診をお願いして個別支援している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	協力医療機関の看護職員や、定期的に受診する歯科医の看護師さん等との交流はあるが、地域の看護職との交流までは出来ていない。	○	地域の看護職員との連携のとれる機会を作り、相談のできるような環境作りしていきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、本人の支援状況の情報提供しながら、頻繁に職員が面会して、家族とも密に連携しながら、病院等のケースワーカーとも情報交換を行うようにしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に終末時における対応について、本人、家族に説明し、重要事項説明書で重度化し、重篤な状態になった場合には、医療でお願いするようにしている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	疾病の重度化については、主治医と連携とりながら、方針としては病院へお願いするようにしている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	病院や他の施設に移られた場合、支援状況など情報提供している。又家族とも連携しながら、情報の交換を行うようにしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	○	馴染みの中にも、プライバシー損ねることのないように、職員全員で常に確認するようにしたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居者の個々の排泄パターンを把握し、大半の方がリハビリパンツ着用しており、声かけでトイレ誘導している。一人だけに声かけせず全員に声かけして、さり気なく排泄促すようにしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	今までの生活のリズムからすれば、夕方が一番良いのかもしれないが、入居者の中に、今日脱いだ衣服を探され、それがないとパニックになった例もあり、現在は午前中を中心に入浴してもらい、直ぐ洗濯して夕方には渡すようにしている。	○	入浴時間等決めてあることで特に不満等出ていないが、今後の課題として検討していきたい
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者の体調や表情を考慮しながら、原則的には本人のリズムに合わせた支援で、休憩、睡眠などやってもらっている。又逆に声かけ、誘導がなければ一日中眠りこける人もあり、個々に合わせた支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	自分のやれることを役割とされ、自分の存在感を認識してもらっている。それぞれ持てる力に応じて役割をお願いしているが、無理強いしないようにしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる方は少ないが、少額の金銭を所持してもらっている方もある。殆どが預からせてもらっている。買い物など必要に応じて渡している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の気分や、体調を見ながら散歩やミニドライブなど、天候にもよるが季節を肌で感じてもらい気分転換をしてもらっている。又特別な日程は組んでいない。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者の行って見たい所、会って見たい人や、本人の思い出の場所など、本人の希望をかなえてあげられるように、支援している。墓参り、病院見舞い、帰宅、施設面会など。又家族にもお願いすることもある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話を希望される方にはかけてやり、話してもらっている。手紙の書ける人は限られているが、できるだけ書いてもらって、家族に見てもらっている。(fax)		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来客をととても喜んでもらっていることから、家族にも出来るだけ面会をお願いしている。居室でお茶を飲んでもらったり、運営推進会議など出席者には皆さんに声かけお願いして、一緒にお茶のみなど企画している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ケースによっては家族に報告することになっているが、ホームの方針として、身体拘束しないことにしており、行っていない。身体拘束に関して、職場の勉強会など通じて認識をはかり、気付かないうちに身体拘束など行われていないかケアについて話し合っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	自由に外出できるようになっており、入居者の行動パターンも配慮して、安全面に配慮している。但し入居者の状況によっては危険防止のため施錠することもある。重要事項説明書にも明記し、入居時に了解取るようにしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は常に入居者の言動や、表情など観察しながら、夜間も定時、もしくは必要に応じて、巡視を行いそのときの状況変化に直ぐ対応できるように工夫している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な、刃物や薬など、所定の場所に保管するようにして、手軽に扱えないようにしてある。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入居者の状態や、状況を把握し、食事時の誤嚥防止の見守りや、服薬については状態に応じて、直接介助したりしている。転倒事故防止についても、予測されるケースには特に注意を払い全員気をつけているが、残念ながら発生している。	○	転倒事故防止には全員気をつけているが、夜間ないし早朝に居室でベッドから滑り落ちたり、いつしたか分からないことなどもあり、その発生防止についても全員で取り組みたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事故等想定した初期対応についての、その場に応じた勉強会などしているが、定期的には実施出来ていない。	○	消防署の協力を得て救急手当や、蘇生術など定期的な訓練を全員が受けられるよう体制作りしていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1～2回の防災訓練など実施しているが、災害発生時の協力依頼を自治会にもお願いしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	リスクに関しては、家族との信頼関係が重要であり、かねてより関係作りしながら、状況の変化など都度連絡して、リスクについても話し合っている。開放的な暮らしの表裏にリスクが潜んでいることも理解してもらっているようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日の健康チェックと、様子観察、生活介助を通じて、状態の変化があれば、異常に気付いたものが報告連絡し、対応するようにしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人台帳に薬品カードを添付し、随時確認できるようにしている。途中臨時に処方された場合は、連絡帳、引継ぎ時に報告するようにしている。服薬後も異常ないか見守りしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	できるだけ身体を動かすようにして、食事や水分摂取など工夫している。また必要に応じて主治医とも相談しながら、緩下剤等は調整させてもらっている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、見守り、介助にて口腔ケアを行い、自分で出来る方はブラシを使って洗浄してもらい、出来ない方への洗浄介助、うがいをやってもらっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や、水分摂取量をチェックしながら、一人一人の状態や本人の希望など検討して食べてもらっている。作る料理は家庭的なものを中心に、好き嫌いなど確認しながら調理している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	通知等により、発生状況を情報収集した場合、都度対応について勉強会、資料掲示して、早期発見、早期対応に努めるようにしている。インフルエンザの予防接種など入居者全員受けるようにしている。職員も極力接種するようにしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板や包丁など、毎晩漂白消毒を行い、生活の場として清潔、衛生に気をつけている。また使用した茶碗、皿など什器品など高温乾燥機を使用、消毒している。冷蔵庫なども点検掃除に心がけ、新鮮で安全な食材を使用するようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入居者や、来訪者が親しみや安心の得られるような場所として、玄関先から、庭へ季節の花など植え、明るい雰囲気玄関周りになるようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が、使いやすい配置や、馴染みのものを取り入れ家庭的な雰囲気になるよう心がけ、共用の場が居心地良く過ごせているか表情など観察しながら、調整するようにしている。テーブルには季節の花を飾り、季節感取り入れている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでの隣通しのお話しや、個々自由にソファでくつろいだり、ゆっくりテレビを見たりと、思い思いに過ごせるスペースを確保している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの物や、使っていた椅子など持込み、自分の部屋として心の安らぎが得られるように、プライバシーに配慮しながら居心地良く過ごせるようにしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく、換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	フローア、廊下には温度計、湿度計を設置し、入居者の様子も観察しながら、換気や、温度湿度調節している。また外気温との差も大きくならないように調整している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの施設の中で、いたるところに手すりなども設置し、必要に応じて個別に設備を整備し、安全確保と自立への配慮している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者の出来ること、出来ないことの把握をしながら、声かけにも混乱しないように個々に合わせたケアを行うようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ホーム周辺や、玄関前に草花を植えたりして、水やりや、草取りなど体調に合わせてやってもらっている。また気候により、外気浴をしたり、日光浴したりして気分転換を図っている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

家庭の延長で、隠居に来ているくらいの気持ちで暮らしてもらっている。